

巻頭言	大阪府立大学教授 池田 有光	2
電中研「酸性雨研究」のあゆみ		4
はじめに	理事 狛江研究所長 福島 充男	6
第1章 酸性雨問題の変遷と当研究所の取り組み		7
1 - 1 酸性雨問題の始まり		9
1 - 2 アジアの酸性雨		12
1 - 3 当研究所の取り組み		15
第2章 酸性物質の広域輸送		19
2 - 1 東アジアの酸性雨の実態		21
2 - 2 長距離輸送モデル研究の現状		26
2 - 3 広域輸送の将来予測		28
第3章 森林生態系における酸の挙動		33
3 - 1 森林への酸の総沈着量		35
3 - 2 土壌 - 植生系における酸の収支		37
3 - 3 臨界負荷量とアルミニウムの化学		40
第4章 山地流域の酸性化予測		45
4 - 1 鉱物風化による酸中和作用の評価手法		47
4 - 2 酸中和作用の流域比較		48
4 - 3 酸性化の長期予測		52
第5章 樹木への影響評価		55
5 - 1 各地の森林衰退状況		57
5 - 2 酸性雨・霧の影響		62
5 - 3 オゾンと二酸化硫黄の単独および複合影響		66
第6章 コンクリート構造物への影響評価		71
6 - 1 コンクリートの劣化要因		73
6 - 2 暴露実験による影響評価		75

第7章 総合評価	81
7 - 1 酸性物質の広域輸送.....	83
7 - 2 酸性物質の環境影響.....	84
7 - 3 今後の課題.....	85
おわりに ===== 理事 我孫子研究所長 加藤 正進	86
引用文献・資料等	87

コラム目次 =====	
1. ミックス・アジア	31
2. 窒素飽和の功罪	44
3. 世界の陸水影響予測モデル	54
4. オゾンのクリティカルレベル	70
5. コンクリートのつらら現象	79

表 紙 =====

「ミズナラ林」(河野吉久, 1993年10月7日撮影)

奥日光・光徳牧場から山王林道を山王峠に向かった林道沿いに静かに広がる。